

Management Club Report

Apr.2012/Vol.112

Monthly Opinion 《失敗を隠さず失敗に学ぶ》

関西電力大飯原発の再稼働問題で世論が揺れています。必要性が強調されるあまり安全性がないがしろにされているのではないかと不安を、地元住民ばかりではなく国民の多くが感じています。

電力の供給不足はいろいろなところに深刻な影響を与えます。重篤な患者が入院している病院では人命に関わることでしょうし、歯科医院にとっても死活問題であることは、昨年の計画停電騒動で嫌というほど分かっています。

また産業の停滞につながれば、ようやく回復基調を示し始めた経済は頓挫し、国際競争力が益々弱まってしまうことも憂慮されています。

そういう意味では効率的な発電能力を有する原発の『必要性』は誰しもが分かっています。とは言うものの『必要性』に基づいて建設されたものが『安全性』に問題があったために起きた1年前の大事故の痛みはいまだに消えていません。その失敗に私たちは学ぶべきだとは多くのマスコミが伝えているところです。

今回は、社会的な問題を自分たちの医院経営に置き換えて『失敗を隠さず失敗に学ぶ』そんな経営のあり方について考えてみたいと思います。

1

ハーバードビジネスレビュー《検証・失敗の本質》

念願の『失敗の研究』に喝采

ダイヤモンド社の月刊誌『Harvard Business Review』1月号の特集は『リーダーシップ不在の悲劇／検証 失敗の本質』でした。ここで言うところの『失敗』とは、勝てる見込みのないアメリカとの戦争にのめり込んだこと的外交上の『失敗』と、主にアメリカとの戦闘に負け続けた軍事上の『失敗』についてです。

これまでも太平洋戦争に関する“失敗の研究もの”はあることはありましたが、このようにビジネス誌に、現代ビジネスに生かす目的で特集が組まれたのは珍しいと思います。

ただ私にしますと、日頃より「侵略戦争に突き進んだ反省は嫌というほどしてきてはいるものの、戦争で負けたことの反省をして、現代に生かそうという前向きなリアリズムが日本の社会にはない」と、戦後の世相を批判していた身にしますと、このハーバードビジネスレビューの試みには諸手を挙げて拍手を送りたいと思います。

嫌なことは早く忘れない日本人

日本人にはどうも失敗を素直に認め虚心坦懐に反省をし、次に生かそうとする精神に欠ける傾向があるように思えます。

「済んだことは仕方がない」